

4. 中央競技団体の役職員に関する調査（個人調査）

本調査では、各団体への調査とともに団体の役職員のうち、「役員（常勤）」「正規雇用者」「契約／嘱託職員」および「出向」の個人を対象として競技経験の有無や入職経路などを調査し、55団体の402人から回答を得た。

回答者の男女比をみると、男性が60.7%、女性が39.3%であった。団体を対象とした調査（p.11、表4）における「理事（常勤）」「正規雇用者」「契約／嘱託職員」および「出向」の男女比は、男性が64.9%、女性が35.1%のため、わずかに男性の回答率が低い。ただし、対象となる役職員893人のうち、402人（45.0%）からの回答にとどまっているため、以降の分析結果を中央競技団体の役職員の全体傾向として扱う際には留意が必要となる。

4-1 基本属性

1) 年齢および雇用形態

対象とした役職員の基本属性として、年齢および現在の雇用形態をみた。平均年齢は、「役員（常勤）」が61.1歳、「正規雇用者」が43.4歳、「契約／嘱託職員」が50.8歳、「出向」が48.5歳であった（表6）。性別にみると、「役員（常勤）」が男性62.4歳、女性55.4歳、「正規雇用者」が男性43.9歳、女性42.6歳、「契約／嘱託職員」が男性56.8歳、女性45.0歳、「出向」が男性51.0歳、女性38.0歳であった（表7）。「正規雇用者」に男女差はみられないが、「役員（常勤）」「契約／嘱託職員」「出向」は女性よりも男性の平均年齢が高かった。

表6 中央競技団体の役職員の平均年齢（雇用形態別：全体）

(歳)

雇用形態	全体
役員(常勤)(n=48)	61.1
正規雇用者(n=247)	43.4
契約／嘱託職員(n=72)	50.8
出向(n=21)	48.5

表7 中央競技団体の役職員の平均年齢（雇用形態別：性別）

(歳)		(歳)	
雇用形態	男性	雇用形態	女性
役員(常勤)(n=39)	62.4	役員(常勤)(n=9)	55.4
正規雇用者(n=146)	43.9	正規雇用者(n=101)	42.6
契約／嘱託職員(n=35)	56.8	契約／嘱託職員(n=37)	45.0
出向(n=17)	51.0	出向(n=4)	38.0

次に、「正規雇用者」と「契約／嘱託職員」に絞って、雇用形態の割合をみると「正規雇用者」の割合は全体で77.4%であった。年代別では、20代89.2%、30代83.3%、40代84.5%、50代77.8%、60歳以上39.0%であり、20代が最も「正規雇用者」の割合が高かった（表8）。2014年度調査では、20代以下の「正規雇用者」の割合が72.2%であったことから、この4年で20代の正規雇用化が進んだといえる。

性別・年代別にみると、男性・女性ともに20代が最も「正規雇用者」の割合が高く（男性94.4%、女性84.2%）、おおむね年代が上がるにつれて割合が低くなる（表9）。また、すべての年代で女性よりも男性の「正規雇用者」の割合が高い。

表8 中央競技団体の職員の正規雇用／非正規雇用構成比（年代別）

(%)

年代	正規雇用者	契約／嘱託職員
20代(n=37)	89.2	10.8
30代(n=72)	83.3	16.7
40代(n=97)	84.5	15.5
50代(n=72)	77.8	22.2
60歳以上(n=41)	39.0	61.0
全体構成比(n=319)	77.4	22.6

注)「正規雇用者」と「契約／嘱託職員」を合計し、その構成比を示している。

表9 中央競技団体の職員の正規雇用／非正規雇用構成比（性別×年代別）

(%)

年代	性	正規雇用者	契約／嘱託職員
20代	男性(n=18)	94.4	5.6
	女性(n=19)	84.2	15.8
30代	男性(n=38)	92.1	7.9
	女性(n=34)	73.5	26.5
40代	男性(n=59)	91.5	8.5
	女性(n=38)	73.7	26.3
50代	男性(n=31)	87.1	12.9
	女性(n=41)	70.7	29.3
60歳以上	男性(n=35)	37.1	62.9
	女性(n=6)	50.0	50.0
全体構成比	男性(n=181)	80.7	19.3
	女性(n=138)	73.2	26.8

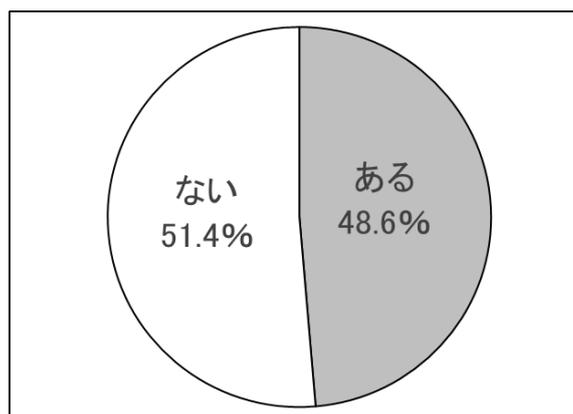
注)「正規雇用者」と「契約／嘱託職員」を合計し、その構成比を示している。

4-2 職員の競技経験および入職の状況

1) 競技経験・競技歴・競技レベル

役員（常勤）を除いた職員（正規雇用者、契約／嘱託職員、出向）の当該団体種目の競技経験をみると、競技経験が「ある」と回答した者は48.6%とおよそ半数にのぼった（図8）。

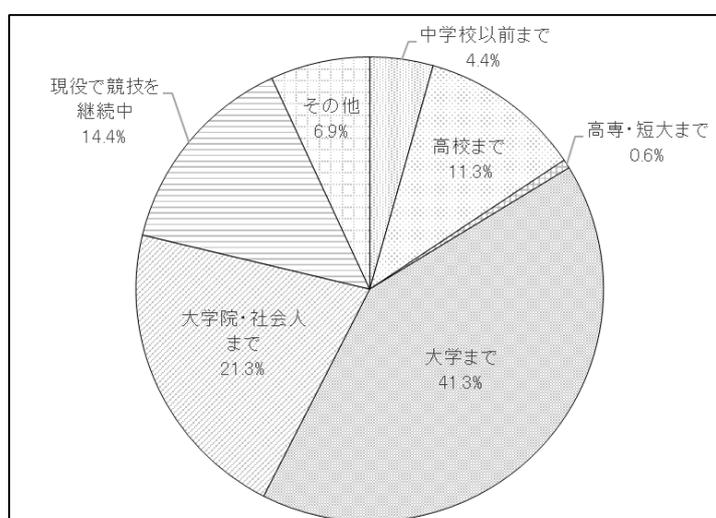
図8 中央競技団体の職員における勤務先団体種目の競技経験（n=333）



注) 職員は「正規雇用者」「契約／嘱託職員」「出向」のいずれかの雇用形態の者。

競技経験が「ある」と回答した者の競技歴は、「大学まで」が41.3%と最も多く、「大学院・社会人まで」21.3%と合計すると、6割を超える職員が大学入学以降も競技を続けていた（図9）。また、「現役で競技を継続中」（14.4%）の職員がいる競技団体は13団体であり、武道や球技、海洋系スポーツなどさまざまな種目にみられた。「その他」では、「社会人から開始した」の回答が多くみられた。

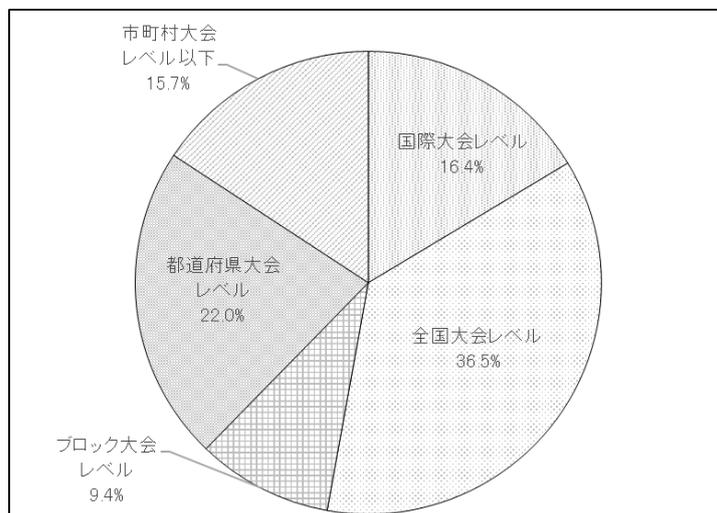
図9 中央競技団体の職員における勤務先団体種目の競技歴（n=160）



注) 職員は「正規雇用者」「契約／嘱託職員」「出向」のいずれかの雇用形態の者。

競技経験が「ある」と回答した者の競技レベルは、「国際大会レベル」が16.4%、「全国大会レベル」が36.5%となり、競技経験のある職員の半数、職員全体の1/4が全国大会レベル以上の競技実績を有している（図10）。

図10 中央競技団体の職員における勤務先団体種目の競技レベル（n=159）

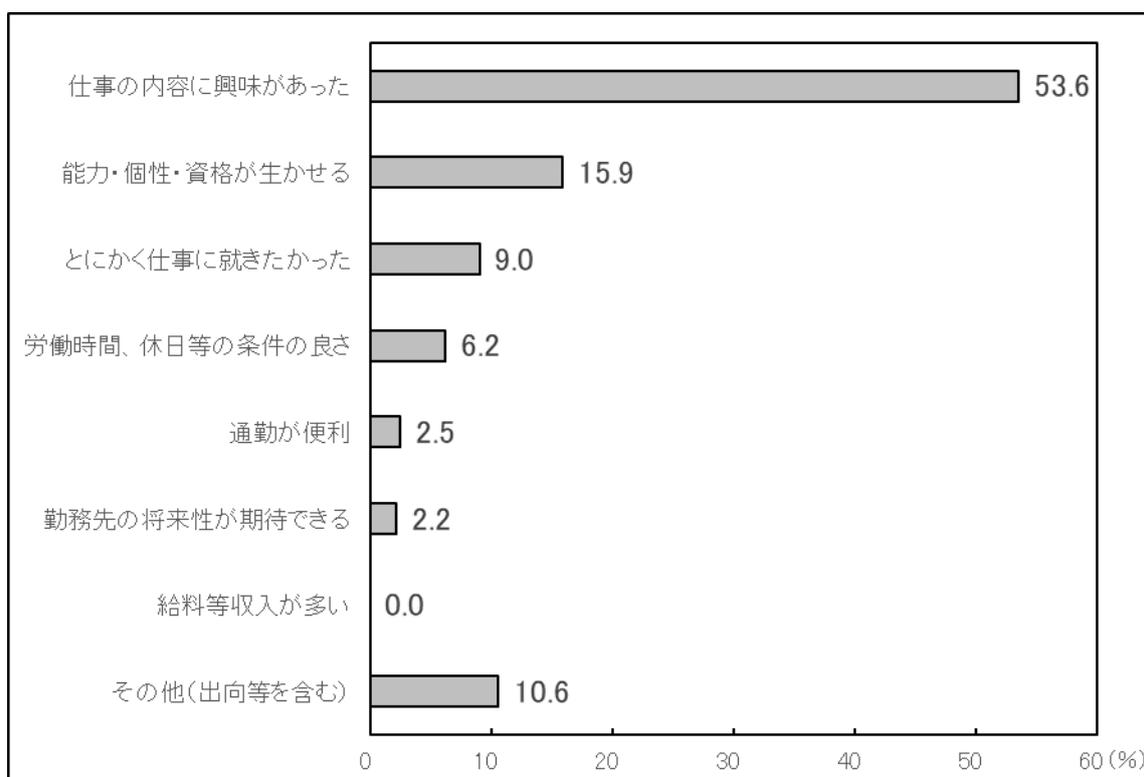


注) 職員は「正規雇用者」「契約／嘱託職員」「出向」のいずれかの雇用形態の者。

2) 入職理由・入職経路・入職前の仕事経験

「出向」を除いた職員（正規雇用者、契約／嘱託職員）の入職した主な理由をみると、「仕事の内容に興味があった」が53.6%と最も高く、半数以上であった（図11）。ついで「能力・個性・資格が生かせる」15.9%、「とにかく仕事に就きたかった」9.0%となった。「労働時間、休日等の条件の良さ」といった福利厚生を理由として入職した者は少なく、「給料等収入が多い」を理由として挙げた者は0人であった。「その他」では、「誘われたから」「組織再編のため」などの理由がみられた。

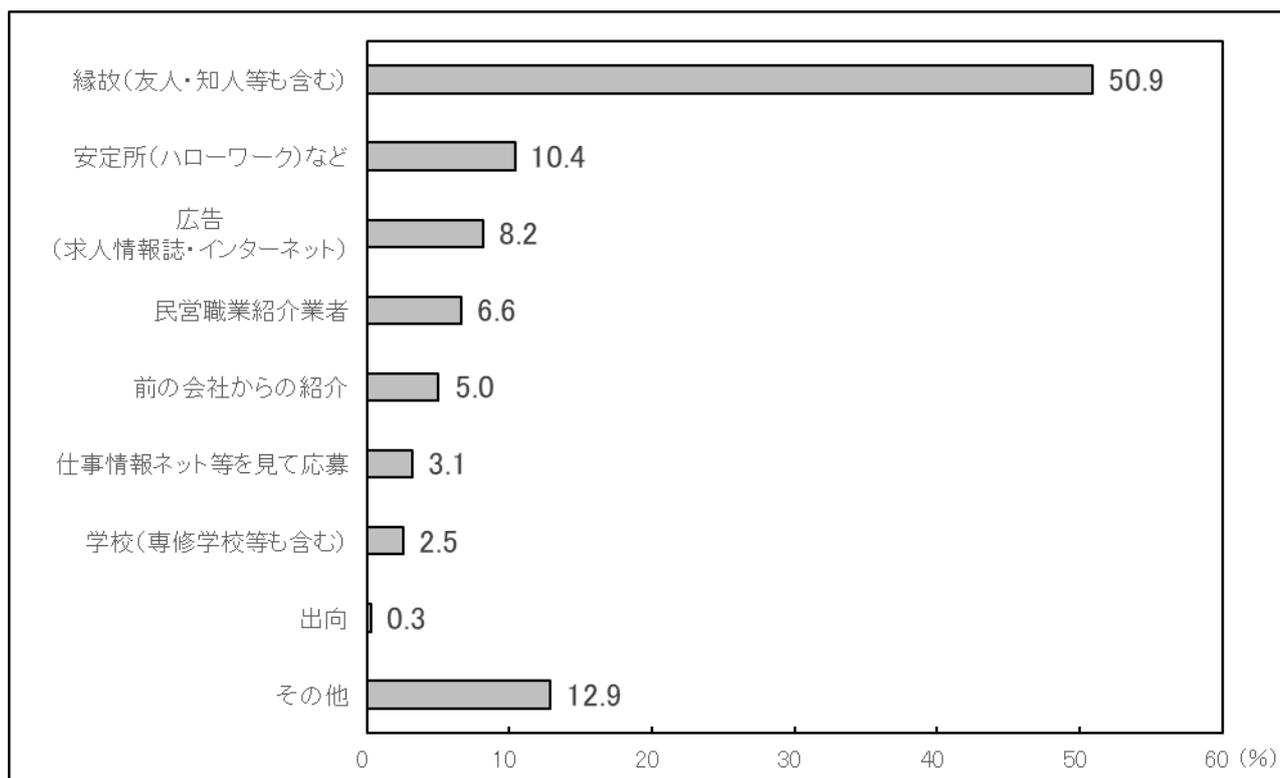
図11 中央競技団体の職員の入職理由（n=321）



注) 職員は「正規雇用者」「契約／嘱託職員」「出向」のいずれかの雇用形態の者。

「出向」を除いた職員（正規雇用者、契約／嘱託職員）の入職経路（あっせん機関等）をみると、「縁故（友人・知人等も含む）」が 50.9%と半数を超える（図 12）。ただし、2014 年度調査では「縁故（友人・知人等も含む）」が 61.0%であり、4 年で 10 ポイント程度低下している。以下、「安定所（ハローワーク）など」10.4%、「広告（求人情報誌・インターネット）」8.2%が続く。

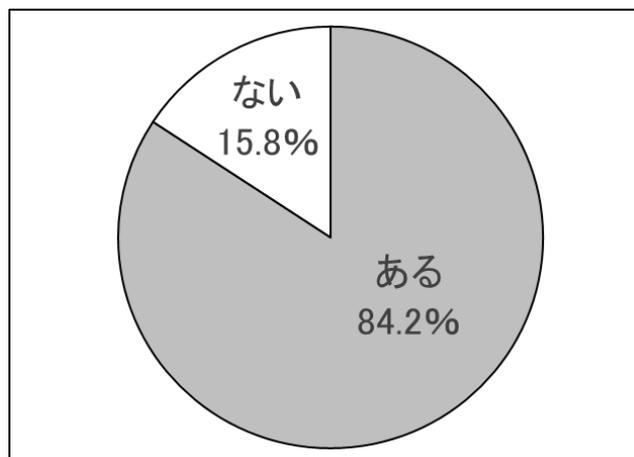
図 12 中央競技団体の職員の入職経路（あっせん機関等）（n=318）



注) 職員は「正規雇用者」「契約／嘱託職員」「出向」のいずれかの雇用形態の者。

「出向」を除いた職員（正規雇用者、契約／嘱託職員）の入職前の仕事経験をみると、「ある」と回答した者が84.2%であった（図13）。8割以上の職員が転職を経て入職したことがわかる。

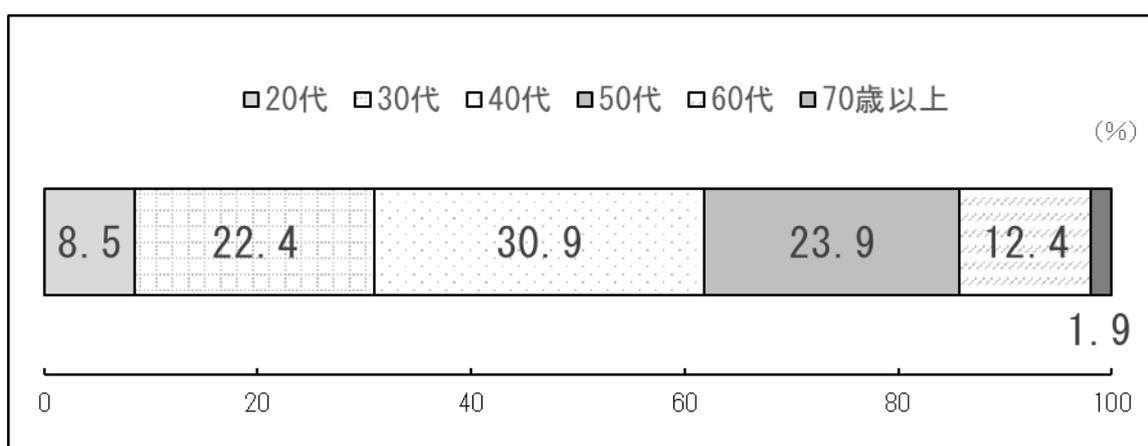
図13 中央競技団体の職員の入職前の仕事経験（n=311）



注）職員は「正規雇用者」「契約／嘱託職員」「出向」のいずれかの雇用形態の者。

入職前の仕事経験が「ある」と回答した者（転職経験者）の年代をみると、20代8.5%、30代22.4%、40代30.9%、50代23.9%、60代12.4%、70歳以上1.9%であり、40代が最も多く、次いで50代、30代となった。競技団体へ転職してくる職員のボリュームゾーンは40代ということがわかる。

図14 入職前の仕事経験「あり」の者の年代（n=259）

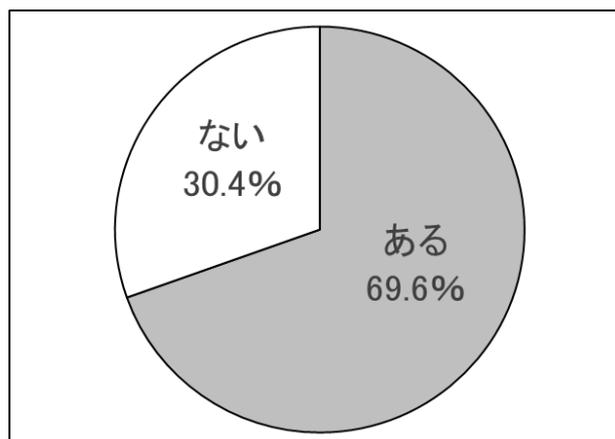


4-3 役員（常勤）の競技経験および入職の状況

1) 競技経験・競技歴・競技レベル

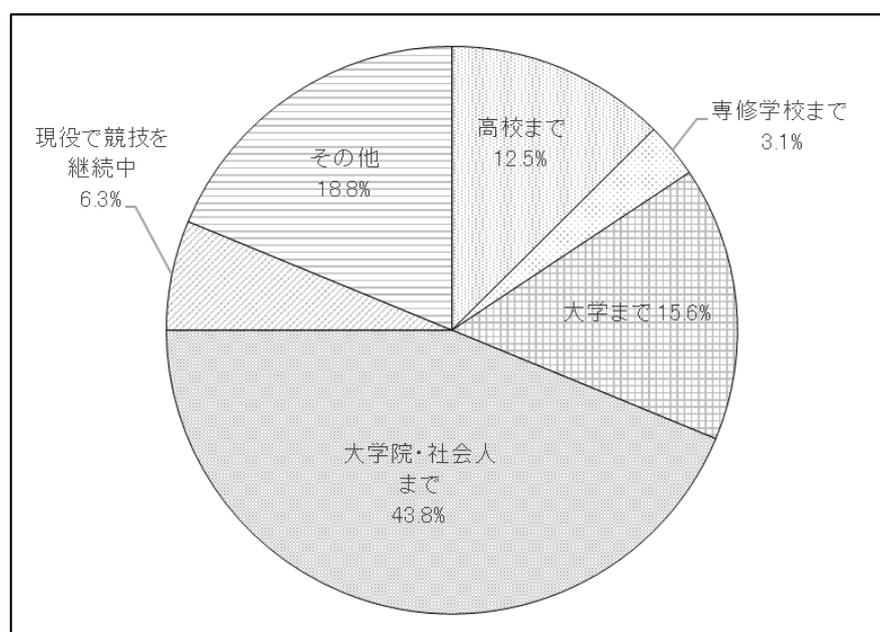
役員（常勤）の当該団体種目の競技経験をみると、競技経験が「ある」と回答した者は69.6%と競技経験者の割合が7割程度であり、「競技者自治」の傾向は続いているが、2014年度調査（87.5%）と比較すると、その割合は低くなっている（図15）。

図15 中央競技団体の役員（常勤）における勤務先団体種目の競技経験（n=46）



競技経験が「ある」と回答した者の競技歴は、「大学院・社会人まで」が43.8%と最も多く、「大学まで」15.6%と合計すると2/3の役員（常勤）が大学以降も競技を続けている（図16）。「その他」では、「社会人から始めた」「プロとして引退するまで」などの回答が得られた。

図16 中央競技団体の役員（常勤）における勤務先団体種目の競技歴（n=32）



競技経験者の競技レベルは、「国際大会レベル」と「全国大会レベル」がともに36.7%であり、競技経験のある役員（常勤）の3/4、役員（常勤）全体の5割以上が全国大会レベル以上の実績をもつことがわかる（図17）。職員（正規雇用者、契約／嘱託職員および出向）と比較すると、役員（常勤）のほうが高い年齢まで競技を続け、競技レベルも高いことが明らかとなった。

図17 中央競技団体の役員（常勤）における勤務先団体種目の競技レベル（n=30）

